(十三日夕刊)

磐城新聞

休刊 大祭日の翌日 第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料(一行五十錢指定廿錢增)
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

兵役待遇の改善

平町 市井五郎

廢兵の待遇改善についてはわれらも、つとに當局者の考慮を促すと共に、廣く世上の注意をも喚起してたいたのであるが、今回いよ〳〵陸軍當局者は、兵役義務者、及び、廢兵の待遇改善に關し、審議會を設けて改善案を審議することにした。當然のことではあるがまことに結構の次第である常に國家の根本問題に思ひをいたすもの丶眼から見れば、この問題は實に非常に重大なのであるに拘らず今日まで閑却されてゐたのは不思議なくらゐである。總て物事は關係者から要求しなければ自然に閑却されるが如き傾向を免れないけれども、いやしくも、國家の根本に關する大問題については、爲政者として、その要求のあると否とに拘らず、進んで適當の施設を行ふのがその務めであらう。

兵役待遇改善審議會の第一回總會に諮問された案件は、現役兵及び、その家族の待遇、在郷軍人及び、その家族の待遇、それから廢兵、及び、その家族の待遇と、戰死、若しくは、公傷病死者の遺族に對する待遇などである。兵役義務者の待遇に關する諮問案としては、項目はこれにて盡されてゐるであらうが、しからば、その待遇をいかにすべきかといふ具体案になると人によつて、その見るところが、いろ〳〵であらうがしかし、これを何んと改善しなければならぬといふ點は、おそらく、何人も一致するところであらう。宇垣陸相の挨拶にもあつた通り毎年徴兵檢査を受檢壯丁數は、大約六十萬人に上つてゐるが、その中、陸海合せて十餘萬人だけが現役兵として徴集されるのであるから、他の四十數萬人は徴兵を免れるわけである。現役兵に徴集されることはもちろん心身の健全を語るものであつて、一種の名譽には相違ないが、これを經濟的に觀察すると、この十餘萬人の中には、その壯丁に頼つて家計を營んでゐるものもあらう、それでなくとも壯丁を徴集されたゝめに、家計に困難を來すといふものも、おそらく少くないであらう、現役兵に徴集されるものが、悉く、それによつて家計上に累を及ぼさぬ家の子弟であるならば、もちろん、問題はないのであるが、いづれかといへば!富裕ならざる家の子弟の方が多く徴集されてゐるのである。これらの實情を知るならば、これに對して、何等かの斟酌なり、また保護なりを講じなければならぬことは、言を待たずして明かである。現役中に病を得れば、在營中こそ、國費で加療するの道はある、けれども、一旦歸郷した後は、自力以外に加療の道がないといふが如きことも國家が兵役の義務に服する人々に酬ゐるゆえんではないといふ、また、在郷軍人となつて後に病を得ればなほさら十分に療養し得ないといふ事實を見ながらこれを放置してかへりみないのもやはり、兵役義務者に對す、國家の薄遇といはなければならぬ、廢兵や、戰死者の遺族や、公傷病死の遺族に對する待ぐうの如きも、現在は決して十分なりとはいへないと思ふ。

兵役義務者の待ぐう改善には、いづれ經費が伴ふので、遂に、あるひは、行悩む場合があるかも知れないが、われらは、無論、國家として、相當の經費を支出しても然るべきだと思ふ。當局者は、須らく事態の輕重大小を案じ、一方に節して地方にもちふるの手段を執り、比較的不急、かつ、重要ならざる經費節約して、この國家の根本問題にも關する重大事案解決のための經費に振向くべく一層の努力を試むべきであらう

明日の吉凶

舊暦十一月十四日 新暦十二月十四日

▲一白の人 活氣は十分あれど空景氣に終らぬ様に注意▲二黑の人 出先に故障の頻發する日よろづ進む事は凶▲三碧の人 世の雲行きに卷込まれず營々と勵むべき時▲四綠の人 氣のみ忙しくして結果は却て面白からぬ日▲五黃の人 働きの目に見へぬとも氣を腐らすこと勿れ▲六白の人 心の角を取りて何事にも圓滿を主とすべし▲七赤の人 順調に見へても外より破れが生じ易し注意▲八白の人 上にのみ氣を奪はるれば足許は疎かになる▲九紫の人 八方に目を配り障碍を除きつゝ徐進すべし

講談 幕末奇傑 高山彥九郎 (20)

中西洋々作 布施長春畫

鄕關を出づ (一)

折柄十六夜の月は、もう半ばその航路を卒へて、意味もなく、西の地平線への路を急いで居りました。

通る人とてもない畑中道彥九郎は、流石に追はれる樣な心地して、沈みゆく月を追うて、路を急ぎました……。

軈て、村境ひの松並木のほとりまで出ました。春の夜の涼風は、そよ〳〵と、頰をなでて通りすぎてゆきます我家と覺ゆるあたりは黑く榛の木の群に掩はれてさだかに、それとも見わません……。

流石に、一沫の哀傷を感じ乍ら、彥九郎は去りがてに、しばしたゝずんで居りました。

彼が、百々の村近く來たときでした、同じその道を向ふから、急ぎ足に來る人がありました。

月夜のことゝて、提灯も持つては居りませんが、流石に、家出人、といふ觀念をもつてゐるだけに心がとがめて、どこかに身をかくしたいと思ひましたが、畑中の一本道、どこに身をかくそう所もありません。仕方なく、面を深く編笠に包んで、通りすぎようとしたときでした。

「おゝ、そなたは彥九郎ではないか」

すれ違ひざま。袖をつかんでその人は呼びかけました。

しかも、その聲、その聲は紛ふかたなき叔父劍持長藏です。

「や、叔父上にございますか」

流石に、はつとして、編笠をぬぐと、彥九郎に、叔父の前に、深く頭を垂れました。

「おゝ、やはり、彥九郎ぢやつたか。して、この夜更けにいづこへ參るのぢやな」

「……」

「はい……」

「しかも、仰々しいその身拵へで……」

「……、……」

「何か、また傳藏が、いやな用でも云ひつけたといふのかな」

「いゝゑ、左樣ではございませぬ」

彥九郎は、始めて、頭をあげると、決意に輝く瞳を以て、叔父の面をぢいつと見返しました。

「實は、叔父上、ひこ九郎はお暇仕りたうございます……」

「うむ、なんぢやと」

た父も、思ずせき込んで訊ね返しました。

「暇をと申すか」

「はい」

「ふうむ。して、それは、また、何ういふ譯でぢやな」

「…………」

「詳しう仔細を話して見るがよい」

「はい、實は……」お父の理解ある言葉に、ひこ九郎は、自分の雄圖にもゆる志を物語りました。

「ふうむ、偉ひ!」

すべてを、あふれるような熱誠を以て聞きいつてゐた長藏は話し終ると同時に思はず賞讃の聲をはなちました、ひこ九郎の手を、むづと、摑んで。

「よく、一人でそこ迄の覺悟がついた、この長藏、心から、た前の前途を祝ふぞ」

「……」

「では、た父上」

ひこ九郎は、深い感謝の籠つた瞳をあげて、お父の手を強く握り返しました。

「お許し下さいますとか」

「おゝ、許さない事かわしや喃、お前に兼ねてからそれを進めてみたう思つてゐた所なのぢや」

「有がたう存じまする」

ひこ九郎の見上げた瞳からは、はら〳〵と、感謝の熱涙が、あふれ出ました、それに、夜空に瞬く月影が返映して、美しい珠玉のようにも光るのでした。

廣告

平町田町 高久病院 電話五一三番

夜間診療
胃腸 梅毒
內科 十二指腸虫病 專門 內科部
淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院 (平町南町電話一〇七番)

X光線 外科專門
入院隨意(自炊の便あり)
平町南町 上田外科醫院 電話一二九

新荷着ト商品全部値下
貴金屬 金側寶石入アンクル腕時計 十貳圓ヨリ
時計 クロム側寶石入アンクル腕時計 六圓ヨリ
十八金石入指輪 四圓ヨリ
眼鏡 精工舍裝○S印目覺時計 貳圓ヨリ
蓄音器 精工舍製美術硝子置時計 貳圓ヨリ
商事會社製八日卷掛時計 五圓ヨリ
外保險付領安品澤山入荷
歲末ノ御贈答品ヲ是非
皆樣ノ 金光堂時計店へ 電七三六
◎時計蓄音器修繕ハ早ク良ク安ク致シマス

七五三祝へ
新着荷!
子供ドレス
可愛イデス!!!
安イデス!!!
二圓五〇錢
三圓
其の他
平町四丁目 ツルヤ 電一四〇

◎ネイションストーブ 値下斷行
◎ネンシヨウストーブ
連續完全燃燒、燃料經濟、調節自在、堅牢優美、價格低廉
◎スタデリナ石油コンロ
◎及、林內式石油ストーブ
燃料經濟薪炭ニ勝ル、便利ニシテ使用簡易ナリ無煙無臭點滅調節自在ニシテ体裁優美ナリ緊縮時代ニ最モ理想的國產品デアリマス弊所ハ是ガ製造元ト特約ナシ極メテ薄利多賣主義ヲ以ツテ皆樣ノ御需ニ應ジマス是非御試シノ程願上升
日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油會社重油特約店
諏訪電氣株式會社カーバイト特約店
茨城縣下館驛前(電話五五番)
商號 吉田油槽所
本店 關彰商店
常磐線平町一丁目(電話六一番)(九〇二番)
關彰商店平支店

吉田眼科醫院

七五三御祝着
御花嫁御祝着特賣
金解禁と新安値
全商品の宣傳價
十二月一日ヨリ
人形七五三宮詣り陳列 (十一月二十五日ヨリ)
三井吳服店

平町紺屋町 吉田眼科醫院

◎獨乙フンケル會社製
蓄音器針新荷着
◎一本の針デ五回モ使用ガ出來ル
◎高音低音ノ調節自由
◎値安ハ舶來品中デ最モ安イ勿驚 (二百本入五十錢)
△この最モ經濟的ナルアノ入針ヲ御薦メ致シマス
特約店 大谷時針病院 電話十九番

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平壹五〇七番

共濟病院 各科專門
耳鼻咽喉科 醫學士 井上俊次郎
產婦人科 醫學博士 渡部貞助
外科 醫學博士 松枝茂
內科 醫學士 氏家憲介 / 醫學博士 桂重次 / 醫學博士 難波睦 / 醫學博士 中西林藏
×光線 醫學博士 難波睦 / 技師 工藤慶造
衛生試驗所 醫學博士 中西林藏 / 技師 小熊英夫
藥局 藥劑師 吉本孝平
本院醫事法制囑託 法學士 岡蕃
本院主管 賀澤忠治

衛生試驗所
病氣相談所
救療所 (共濟病院內)
共濟病院は皆さんの病院であります御氣付のことは御注意を願へます

磐城 共濟病院 平町電話六四一番
◉看護婦見習募集

縣道に編入したい
植田と小名濱線
建議案を提出

植田町古川鷲兩縣議は若松縣議外十名の贊成を得て元郡道である植田、小名濱線延長約三里の縣道編入に關する建議案を本縣會に提案したこの道路は石城郡植田町地內國道から分岐し大字岩間を經て小名濱漁場を通過し海岸に沿ふて泉村に出で更に字瀧尻に至つて縣道泉、小名濱線に合し常磐線停車場及小名濱町に達する樞要の路線である又一面本縣沿岸四十里の間幾多漁場を有するこれ等を連絡する完全な路線ないため多大な不便を感じてゐる近年相双兩郡から石城郡に入り四倉夏井、高久を經て豊間江名中の作の各漁場を經て小名濱に達する路線の大半は縣道に編入されてゐるが南方の貫縱線であるこの路線は未だその恩惠に浴しないのを遺憾とし昨年の縣會で縣諮問の際滿場一致追加答申してあるものでこれが編入されれば南北の各漁場を貫通した交通によつて產業經濟上に資するや極めて甚大なるものがあるといふにある

四ツ倉組合で
漁業資借入
縣へ認可申請

縣下における漁業の大宗である鰹釣及秋刀魚流し網漁業共に非常な不漁に終つたので各濱漁業組合とも營業資金が不足を來たし起債を申請するもの多いが石城郡四倉濱でも共同販賣購買資業資金缺乏したので今回三萬五千圓を日步百圓につき二錢五厘の割で借入れたいと十一日漁業組合長から縣へ起債認可を申請して來たその借入れ先は左記の如く本年借入れをなし昭和十九年までに年賦償還せんとするものである

二萬圓石城郡好間村小田吉次▲七千圓平町關內正一▲八千圓茨城縣下館町　顯彰

宣傳が利いて
餘儀ない緊縮
忘年會も棒に振つて
平町の歲末情景

緊縮を強ひられずとも自然なしつゝある、平町の歲晚情景は何處から眺めても不景氣そのものである

緊縮せねば何うにもやりくりが出來ない程不景氣が深刻な平町地方は歲末歲始の贈答品も安價の物となり、從來は廢止する向きも出て商人達は書入れの當込み目算が外れ大コボシの有樣である、この贈答品期節を前にして平町役場では公私經濟緊縮實行は斯ういふ際に意義が生ずるものと年末年始贈答品は全廢するやう大量となつて宣傳をなしつゝあるが町が主催となつて毎年元旦に催して來た名刺交換會も會費を五十錢に減額忘年會や新年會、各町別に行つてゐる名刺交換會等は全廢するやうこれ又宣傳を

時計を盜む
植田署に浦はる

石城郡泉村瀧尻吉田義雄(二五)は昨年五月植田町森房計店から腕時計その他を竊取最近平町長橋町疊職小野某方の徒弟に前記腕時計を賣却したこと發覺十二日植田署に檢擧

湯本白煉瓦
縮少
廿名を解職

石城郡湯本町品川白煉瓦株式會社湯本工場は現在一ケ月十萬個の生產能力を有して居る財界不況のため事業縮少の餘儀なきに至り今月より一ヶ月の生產高を六十五萬個に減じた、これがため去月末從業員も年末にあたり第二次整理があるではないかと不安にかられて居るが工場側では整理はこれで打切りであると語つて居る、同工場では昨年末も多數從業員を減少し爭議を勃發せしめたことがあるので所轄平署では萬一を警戒中である、同工場は目下百四十餘名(內女工十餘名)で賃銀最高日給三圓三十錢、最低一圓二十錢平均二圓三十錢位どであると

教育費の減額で
小學校長が起つ
町村當局と折衝する
石城校長會方針

石城郡の各町村は明年度豫算編成に當り何れも教育費の削減を以て豫算減を計るべき方針をたてゝ居る關係から町村側と小學校側との間にやゝもすれば險惡な情勢をかもさんとする有樣なので石城郡小學校長會ではこれが空氣を緩和するため郡內各小學校中に町村と學校とが豫算編成上相容れぬ點を生じた際は校長會幹部がその間を斡旋し學校の主張を容れるやう努力することになつたがその町村內にある學校長と町村當局との直接折衝よりは圓滿に行くものと期待されて居る

簑輪へ拔ける
道路建議
若松縣議外

本縣會へ建議案として提出された縣道編入に關するもののうち石城郡簑輪村及內郷村地內即ち縣道石川平線中簑輪村大字大利から分岐し大字高野及內郷村大字宮を經て綴に出で國道第六號に合する延長三里廿町は鷲若松縣議から古川外五縣議の贊成を得て提出されてゐるものでその途中には痔疾婦人病に特効ある數ヶ所の高野温泉があり宮部落は磐城炭礦々業所の所在地で純然たる市街をなしその戶數三千餘人口一萬五千以上を有し人馬の交通頻繁なるものあり最も樞要線として縣道たるの資格を有してゐるものである

脫兎二人組
平署に捕はる

安積郡富田村十郎內生れ當時住所不定賭博常習犯五犯渡邊市四郎(四一)同內郷村白水三犯渡邊金藏(五二)の兩名

入山炭礦總會
配當は年三分

湯本町入山採炭會社の株主總會は二十八日午前十時より東京大倉組ビル內に開き今年度下半期の決算を附議する筈であるが株主配當は年三分の割であると

磐城炭礦總會
廿八日東京本社で

內郷村磐城炭礦の總會は二十八日東京本社に於て開き下半期の決算取締役白石元次郎、渡邊勝三郎、石井駒次郎三氏任期滿了につき改選監查役一名補欠選擧その他である

植田町の家主が
自發的に値下
先づ渡邊氏肚を決る
續々値下斷行か

平町の家賃値下問題は社民黨石城支部によつて具体的運動に移つたが深刻なる不景氣の襲來と共に家賃及び地代の値下げは今や全國的と成つて來たが他の地方より比較的家賃が高いと非難されてゐる石城郡植田町に於ても借家人が三割の値下げ要求をなすべく寄り〲協議中であるが家主に於ても流石大勢には逆抗し難く諸物價低落の今日貸家も一個の商品たる以上値下の當然なるを感知してゐる事とて値下げ要求が表面化するに先だち大家主渡邊讓之助氏を始め多くの家主は先手を打つて二割値下げを斷行する意圖を有するものゝ如く傳へられてゐる

保一捕はる
內郷の長屋荒し

伊達郡茨庭村大字茂布生れ當時內郷村宮澤居住渡邊保一(二九)は本年八月頃より內郷村高坂居住神田喜太次郎(一八)と共謀し同村宮澤鑛工長屋居住渡邊タケ方に忍び入り現金衣類を竊取したるを始めとし同樣の手段を以て十數家に押入り金品衣類を竊取し遊興に費したるを發覺して十一日平署に檢束されたと

水利權問題で急所を突く
鈴木氏と知事の一騎打

(福島電話)本縣々會十四日目は十二日午前十一時から開會午後一時から傍聽席は漸次增加し大入滿員議員諸公もまた緊張した態度を見せる

鈴木辰三郎君 昨年、一昨年の縣會に於て民政黨の各位が全廢を決議した縣農會補助費を民政黨の知事と稱されゝ小柳知事が必要なりと提案されたこと並に昨年廢止を決議した工業試驗場費を同樣豫算に計上されたことについては深甚の謝意を表する

と多數黨を尻目にかけ堂々雄辯を揮つて質し

濱通りに於ける最も重要產業なり魚漁試驗費の減額をなしたるは如何なる理由か、また斯く減額してもよりよき試驗研究をなし得るか

次に之は耕地關係があるので土木費の豫算の時に保留して置いたものである

と述べて

石城郡小名濱町一町四ケ村の灌漑反別七百餘町に達する鮫川疏水の復活は小名濱商港の完成と共に重大なる關係あるが、縣は次年度に於て計上するの意志あるか

本宮町外二ケ村及び阿武隈川農業水利事業に論及し

斯くの大事業が滿場一致通過せんことを祈るものであるが、將來若し政變で知事の更迭等により或は中止、繰のべにされる樣な憂はないか

と縣當局を皮肉り、阿武隈川農業水利權關係につき內務部長の答辯をきくに

水利權と農業水利は根本から別問題として取扱つて居る樣である

と內務部長の言質を捉へ、コップの水をあふつて

百三十三萬圓と云ふ巨費に對し地元負擔金は四十三萬餘圓、縣は二十萬圓殘りは國庫負擔となつてゐる、四十三萬圓の負擔を課せる地方民は全く氣の毒であるが農業水利權と關聯して多數の水利權出願者があるではないか而して宮田知事時代に關係町村長が水利權出願の上申書を縣に提出してゐる

と既報の如き上申書の內容を讀みあげ、同水利權問題につき

わが黨の力を持つて水利權は解決せしむると伊達河沼の縣議補戰に軍資金を投じた一有志があり縣もこれを是認してゐるとの噂をきくが政治の光明を期する小柳知事に於て斯かる惡質はなからうと信ずるものである

と小柳知事を詰り

縣當局は政黨を超越して關係町村長からの出願に係る水利權を認可し以て地方民の負擔を輕からしむるの意志なき

と質して降壇

小柳知事 登壇、水利權は公益の關係、企業の意志その他を審査し認可の方針をとつてゐる農業水利事業は他の事情を調査し着手するものである

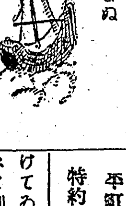
と水利權と水利事業を切離し

もしも水利出願者が多額の犧牲を拂ふに於ては縣も地方民と共に喜ぶものであるが、地方の公益電氣の供給その他電氣事業の適否を考慮せずして認可を與へることは出來ぬ

とさつぱり要領得ぬ答辯を與ふ

鈴木君 知事の答辯は自分の質問の要旨を遠く離れてゐる、さて地方民は全然負擔なくしてこの事業の完成を望むものと信ずる要するに只見川の百萬圓寄附と同樣な問題である、縣はこの點につき大いに努力し地元負擔金なくして工事完成せしめる意志なきか

小柳知事 縣は負擔の輕からしむるため犧牲を拂ふ樣努力することに更に惜しまぬ



町有地も賣れて
平町役場新築
來年こそは實現

平町では役場を新築することに決定緊縮內閣の影響をうけてこれが實現を延期されてゐたが右建築資金に充當すべき現水道課敷地四百五坪並に南町共濟病院隣の町有地百十坪の賣却について同町四丁目百澤島興氏が拂下げたいと申込んだので同町では十一日正午から同役場に於て町役場新築委員會を開き協議した結果百澤氏が提示した買收價格は現水道課敷地坪當り約五十圓南町約三十圓でこの賣價總計二萬三千圓にこれがため新築不可能と見られてゐた役場廳舍が來年度に於て實現されるであらうと見られるに至つた

五大炭礦の
勞務會議
鑛政課長出席

石城郡所在五大炭礦の勞務會議は今十三日平町住吉屋本店で開かれたが仙臺鑛山監督局鑛政課長盟谷鑛政課長は炭礦視察の序で同會に出席した

淺見土木課長
けふ午後歸縣す

淺見本縣土木課長は十一日來平しきのう鮫川を視察し今十三日平町水道水源地を伏見町長並に荒川平署長の案內で視察し十三日午後二時十五分歸縣したと

磐新塔

自動車が散らして行つたビラを子供が集めてふところへ入れてしまつた。ビラに曰く「緊縮に値下斷行」は綺麗なビラを散らしてこの師走緊縮の町をかざらうといふのだ

年の瀨にせまつて新しいホールが平町に二つできた、一つは丸昌ホール、一つは磐城サロンその宣傳書に曰く「緊縮の折からお手輕で廉價、且体裁のいゝ當ホール結婚披露忘年會その他に御利用下さい」

諸油問屋の
海老澤商店
非常な繁昌

平町五丁目に開業した海老澤商店は米國ライジングサン石油會社代理店として自動車、諸機械各種油並に自動車部分品の販賣にして品質の優良と價格の低廉を第一義としてゐる、店主海老澤義氏は茨城縣出身の教育家にして高潔な人格者であ

平のパラチフス
平町の島本敬ちゃん
けふ隔離さる

平町南町十一島本敬造(八)は去る六日頃より發熱し其の後附近の醫師の治療を受けてゐたが十二日パラチフスと判明したので取あいず隔離したが、平町役場でも目下氣候不順なる爲め一層傳染の恐れありと極力防疫に努めてゐると

心配ご無用!

ドンナに惡性頑固な慢性淋病も本剤の强烈な殺菌力で尿道の奥深く侵入せる淋菌を見事に滅殺しウミも痛みもケロリと治療す今すぐ御服用を……

淋病最新藥 トリツクス

定價壹圓・二圓(五日分)・三圓・五圓・十圓(十二日分)

平町五丁目角 特約店 山野邊藥局

自轉車の賊
荒川の友則逮捕

飯野村大字下荒川字川前遠藤友則(一八)は十月十五日午後九時頃平町大町材木商川村清藏方の自轉車を盜み出し登錄番號を川に投じ父名義にして新に平署に登錄乘用したる發覺し十二日平署に檢擧されたと

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

平町人事

△出生

立町八五橋源太郎氏二女子園

仲間町麻川顯氏七女禮子

〇ツ石炭の特色

目方の正確　品質の優良

○ツの石炭は常に安く良くと言ふ事を信條として居ります

◎石炭は只單に一俵いくらと申しても目方が正確でなければ眞に安いとは申されません

◎當店は目方の正確を期する爲めに

正味十貫目ヲ單位トシ一俵六十錢と定めました

○ツの石炭は磐城炭礦、最上等の品で品質は常に一定して居ります大量生產ですからお安く賣る事が出來る强味を持つて居ります

○ツの石炭が他の何處の品よりも高いと御思召す場合は御手數にても御知らせ下さい。御氣に召す樣に致しますから

電話一二三七番へ

平 驛前

ツ 阿部石炭商店

平町田町
高久病院
電話五一〜三番

內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄

開店の御知らせ

美味で評判の イワキ食堂が
此度皆樣の御後援を受けまして
田町松月堂隣へ
イワキサロン
として移轉開店いたしました
名前通り氣持よい客間で御座いますドーゾ御運びを……
平町で初めての試みでありま酒場を特設いたしました
カクテールの……見惑
リキユウルの……芳香
東都一流のバーテンダーが腕によりをかけて御待ちして居ります

田町通り
イワキサロン

讀者の皆樣へ

來る二十日には興味澤山の記事で發行致しますから何卒御待ち下さい。

十二月十三日

磐城之實業社